

# 子どもとお絵描き 楽しむには



記者は子どものころから、絵を描くのが大の苦手。犬を描いたのに、「このクマかわいい」とほめられたことも。なのに最近、「絵を描いて」と6歳と2歳の娘にせがまれる。「忙しいから、また後で」とごまかしているが、もう限界。そこで、子どもが喜ぶ絵をどうやって描いてあげればいいのか、名古屋学芸大(愛知県日進市)ヒューマンケア学部講師の水谷誠孝さん(38)に教えてもらった。(稲熊美樹)

次女(5)から「描いて」と頼まれるのは、アニメキャラクターのアンパンマン。こそこそ練習して、何とかアンパンマンらしく見えるようにはなった。しかし長女(8)は、「かわいい女の子を描いて」と無理な注文をしてくる。水谷さん、助けて。

「絵のうまい、下手なん

## 自由に描かせ、手助けを

て、本当はないんですよ。それに、親がすべての能力を備えているわけではありませんか」と、まず慰めてくれた。うれしかったが、ちよっとは似ているように描きたいもの。でも水谷さんは「親が見本を描く必要は

クレヨン、色鉛筆…

### 成長に応じ 道具準備

歳の子で限界にぶち当たったが、絵に自信がある親でもいつかはその時が来る。「親が描いてあげるのが難しいなあと思ったら、子どもが好きな絵を取り寄せるのが一つの方法です」

水谷さんによると、魚を

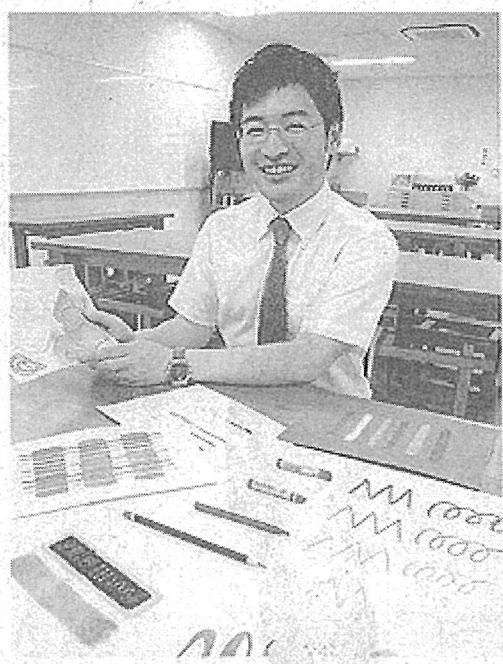
なく、子どもに自由に描かせてあげて、「うまい、うまい」とほめてあげて」と話す。

子どもは成長するに連れ、だんだん難しい絵をせがんでくる。私の場合は二

描こうとしても、切り身しか見たことがなければ描けない。それなら図鑑を見れば良いという。「図書館に行ったり、図鑑を見たりするのは面白い体験。子どもがそれを見たいと思ったと

かを考えた時、何かを感じ、イメージを膨らませて、思考する力が育ちます」

図鑑やインターネットの画像を見本にするのはできても、見本がない絵も描きたい時が来る。例えば、学校行事の「運動会の思い出」などの絵だ。そんな時は「親がちよっと手助けしてあげてください」と、水谷さんは話す。



「道具によって、線の太さや色の出方が異なることを踏まえて」と話す水谷さん。愛知県日進市の名古屋学芸大で

運動会の絵を描くとき、何を描こうか困っていたら「どんな様子だったか、思い出してみよう」「どうやって並んでいたか?」「隣には誰がいた?」などと問い掛けて、一緒に考えていくといい。

水谷さんによると、絵を

描く楽しみ方は多様だ。観察して描いたり、音楽を聴いてイメージしながら描いたり、どこかに出掛けた思い出や空想の世界を描いたり。「絵の楽しみ方は幅広い。絵をきっかけに、世界が広がっていきますよ」

描くばかりでなく、絵の鑑賞も刺激になる。美術館巡りのほか、子ども向けの施設で開かれているさまざまなワークショップに参加するのもお勧め。

子どもの発達段階に応じた、絵の道具を準備することも大切だという。「グー」で握って殴り描きをする時期には、太い線で色がはつきり出るクレヨンが適しているが、もう少し細かく、線で表現する時期にはオイルパステルの方が描きやすくなる。さらに細かい表現をするようになったら、水性のフェルトペンやプラスチック色鉛筆、色鉛筆へと変えていく。

「あくまで主役は子ども。保護者はサポート役に徹して」。水谷さんは強調する。